十二日 夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵稅 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森合英

闕如生氣

バスの定時運轉

山田道朗

この間小名濱から平へバスに乘つて來たところ、市內へ入る一歩手前の片倉工場近くに、江名行きのバスが故障で停つてゐるバスに行き逢つた私達のバスの運轉手は江名行きの運轉手に向つて「何人乘つてゐるんだ」と訊ね「四人だよ」と答へたところ「車庫へバツクだ、その位乘せて步いたのではしやうがあるまい、ダガラ止めればよいのに……」と先方の運轉手を牽制してゐた。

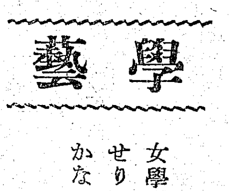
どうもこんな亂暴な話はないだらう。

定期のバスは列車の時刻と同じく客の有無に拘らず時間に依つて運轉してゐるのだと思ふが、最近この定期自動車がガソリン不足、資材難と稱して客が一ぱいに成ると二十分も早く飛び出し、客が尠ないと最終發を中止することなど、時刻が目茶苦茶だ、これではバスで歸るのにウカ〳〵用事も達してゐられない。當て込んだ最終バスなど中止されたら高い宿泊料を拂つて宿をとることになり、定時より早く出られても同じ結果になる

◇

「職域奉公」「公益優先」などの言葉は流行語となつたが、實行が伴はないのは遺憾だ

乘合自動車の如きは公益事業であるから、客の多寡に拘らず時間を勵行、必ず時間に運轉して「職域奉公」を實踐して貰ひたいものである。



學藝

女學生そろひて道路修繕せり明治時代の華なりしかな
（今井邦子）

醫學上より觀たる東北地方の人口對策

醫學博士　五十嵐雄二

（二）

そも〳〵人口の增加を計る方法は、究極する所、多く產むこと產れた者をなる可く多く完全に育てるとの二つに盡きるのである、此の二大目的を達成する爲に種々の方策が講ぜられ又色々と硏究せられつゝあるのである、即ち早婚の獎勵、產兒制限の防止、避姙思想の芟除、母性保護乳幼兒保護等はその主なるものである

早婚獎勵と東北

結婚期が後れ、從つて產兒數が減少してゆくことは從來文化國家拜共通の現象であつて、產兒數減じ人口の減少することは文化民族に與へられたる宿命であるとさへ考へられてゐたのであつた、我國に於てもその出生率を見るに大正九年の三六、二%を頂點として漸減の傾向を辿り、支那事變前には三〇、〇%となり事變後に於ては二六、七%に下り、朝野の有識者をして愕然たらしめたるものである、獨逸に於ても前大戰後出生率の激減を來たし、ヒツトラー總統は果敢なる積極的人口政策を採用して僅か數年の間に民族再生の力を養ひ、今日の覇業の基礎を築くに至つたのであつた、

早婚の獎勵は人口增殖對策中比較的容易にして又最も効果的なものであるので目下我國醫學者間に於ても多數の贊成者ある所以である、數字を以て擧ぐれば大正九年に於ては戶籍上の結婚年令十九才以下のもの二五%であつたものが昭和十年に於ては一四%に減少してゐる、東大婦人科教室の調査によるも、十五年乃至二〇年前迄は十九才乃至二十才で結婚するものが大多數であつたのに、近年に於ては二二才乃至二三才で結婚するものが最も多いことゝなつた昭和十三年度の全國人口動態統計の示す平均初婚年令は更に後れて二四、四才となつてゐる、斯の如く我國婦人の結婚年令が漸次後れて來る事に對しては大いに聲を大にして警告し、極力早婚を獎勵して晚婚の風潮を防遏せねばならぬのである、然るに東北地方の實狀を見ると全國統計といさゝか相違して居るのを發見するのである、即ち東北大產婦人科篠田教授の集計に依る東北六縣に於ける實際上の女子初婚年令は十七才の者一〇%、十八才十六%、十九才十七%、二十才一七、二%となつて居つて、二十才迄に過半數の子女が結婚してしまつてゐるのである、即ち早婚を獎勵勸誘する迄もなく現に實行しつゝあるのである、依つて早婚獎勵運動は全國的には大いに必要ではあるが東北地方に向つては餘り價値はないものと思はるゝのである。

新年雜詠

一步

まつとしもなき三十の初日哉
先づ一句愚庵の春の梅花哉
おもむろに一年の計案じたり
筆硯を先づ淸めたり庵の春
禿筆の躍るや庵の試筆哉
目出度やな惠方の風にさそはれて
醉ふ事を斷ちて二年の初春哉
追羽根の婢にたわむれし禮者の醉

連續講談 〔122〕

異說赤穗浪士

いせつあかほらうし

桃川若燕
畫　城木喬

變名の同志

かくのごとく大石良雄はじめ一同は日數を經て十月二十一日鎌倉に着した、

大石の江戶下向を知ると吉田忠左衛門は磯貝十郎左衛門を連れて川崎在平間村の百姓六右衛門方に大石を落ち付かせる用意萬端を整へた上瀨尾孫左衛門を茲に殘し、自分は大石を出迎へのため鎌倉に赴いた。この日が丁度十一月二十一日京から來た大石一行の人々と、江戶から出迎へた吉田忠左衛門とが鎌倉に落ち合つて、

『これは〳〵御城代、ようこそ御出府下された、一同も御城代の御下向を一日千秋の思ひで相待ち居ります……』

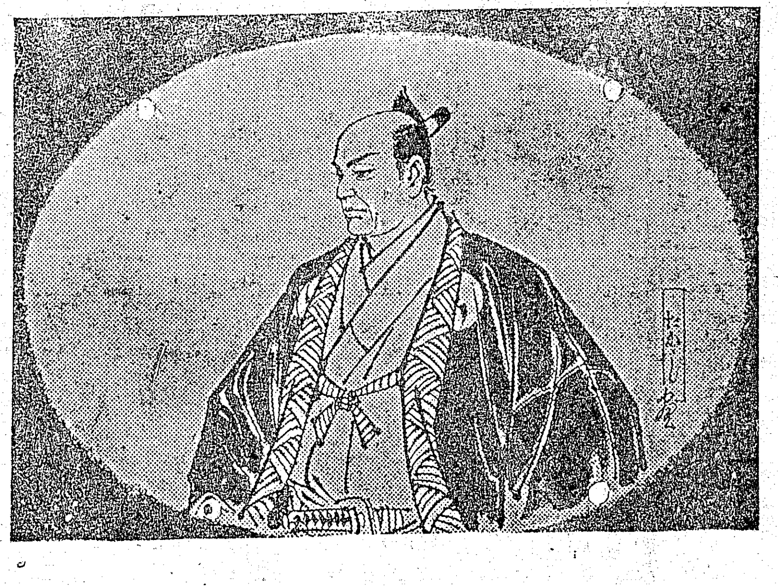
『吉田氏には老体にも拘らず遠路のところを態々お出迎へ大儀でござつた』

とそれから一同打連れて雪の下の丸相模といふ旅籠に泊り丁度三日間此の土地に滯在、これは一黨の副將ともいふべき忠左衛門と大石が討ち入りその他萬端の打ち合せをするためで二十五日に至つて鎌倉を出奔、二十六日平間村の百姓六右衛門方に到着した、吉田忠左衛門は直ちに江戶へ引返して右の事情を江戶在住の急進派の頭目ともいふべき堀部安兵衛に報ぜさせる、同志の士氣は頓に引立つた、

一方大石は平間村に居る事十日余にして吉田忠左衛門からの報知に依つて十二月の五日いよ〳〵江戶に乘込んで主稅の居る日本橋本石町の小山屋彌兵衛へ同宿する事になつたが、飽くまでも一黨の面々との聯絡が目立たぬやう、小山屋へ來る者は吉田忠左衛門原惣右ヱ門、小野寺十內の三人に限りその旨を同志に密々に廻狀した

さて小山屋に滯在中の大石は勿論變名で、池田文左衛門主稅は垣見左內、其外の同志も各々變名を用ひた、これを記すと小野寺十內が醫師と稱し仙北中庵、又大石瀨左衛門が小田權六、菊谷半之丞が町人政右衛門、潮田又之丞が原田斧右衛門、近松勘太が森淸介、川村次郎右衛門が町人嘉兵衛でこれは一黨の傳令役、更に麴町六丁目喜左衛門店には吉田忠左衛門が借主になつて兵學者の田口一眞、倅澤右衛門は田中左平太、原惣右衛門が醫で和田元眞、不破數右衛門は町人八左衛門、寺坂吉右衛門は古澤吉右衛門と云つて吉田の傍に居て用を達してゐる、

同じく麴町の四丁目和泉屋五郎兵衛店には中村勘助が店借主となつて山邑彥兵衛、間瀨久太夫が醫者三橋淨貞、倅の間瀨孫九郎が三橋小一郎、岡島八十右衛門は郡八郎、岡野金右衛門は前名をその儘九十郎、小野寺幸右衛門は父十內と同樣仙北を名乘り名を又助、麴町四丁目七郎右衛門店には千馬三郎兵衛が借主で原三助、よく芝居で演ずる大盃の馬場三郎兵衛が原手助と名乘つて足輕奉公をしてゐたのは此千馬三郎兵衛の原三助から思ひ付いた作者の働きで六間喜兵衛が醫者で杣莊喜齊、倅十次郎が同姓十次郎、二男は新六同姓新六、麴町五丁目秋田屋權左衛門店には富森助右衛門が山本長左衛門、芝通り三丁目濱松町檜物屋惣兵衛方には赤垣源藏の高島源右衛門、矢田五郎左衛門の塙武助門、初め八丁堀後に本町に居たのが村松喜兵衛でこれは假名を荻野隆圓、深川黑江町米屋方には奧田孫太夫が西村淸右衛門芝源助町には磯貝十郎左衛門が內藤十郎左ヱ門、村松三太夫が植松十左ヱ門、茅野和助が町人助五郎南八丁堀湊町平野屋十左ヱ門裏店には片岡源吾ヱ門が吉岡勝兵衛、矢頭右エ門が水木又七、大高源吾が彼屋新兵ヱ、貝賀彌三右エ門は町人嘉十郎、本所林町五丁目紀伊國屋店には堀部安兵衛が長江長左衛門、横川勘平が三島小七郎、木村岡右エ門が石田左膳、杉野十平次が杉野九郎左エ門、



味の司
トンかつ料理 一の井
平三田小路 電一六七

防空暗幕
天幕・シート 防水マント カーテン・敷物、防水加工 製作販賣
◎設計と施工◎
敷島屋商店
平市六丁目六 電呼四八三番

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目
マルトモ食堂
（電話一二三番）

度量衡
モノサシ・升・秤
計量器
體溫器・寒暖計
ハカリの取締垂糸を修繕致します
吸入用酸素純度99%
平四丁目
關內藥局
電話四〇番

神戶牛すき燒
平市仲田町 電話二五〇
茶山

フクロク・ストーブ
入荷のお知らせ
◎久敷品切れ致し居りましたが此度少々配給入荷致しました
◎此度の入荷で當分入荷の見込みはありません
御入用の御方は品切れにならぬ中に成るべく早く御注文下さい
【御希望の方へカタローグ「公定價」を差上げます】
平驛前 阿部石炭店
電話37番、137番

磐城セメント
小賣指定
大谷石を賣始めました
平市南町
野內商會
電話一一番

大の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム ソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水產特約
ヒノマル食品店
平市三丁目 電話二三八番

木炭不足を補ふ黃金燃素
木炭一俵（四貫匁）用僅かに拾五錢にて松炭やボヤ炭又は煉炭タドン豆炭にても火附き能く堅炭同樣火力は二倍以上にて且つ永持ち致しますから御德用です
一袋 貳拾錢
一箱 五拾錢
油のシミでも垢でも揉まず落る垢トール
毛織物、作業服、木綿物絹物、スフ、人絹等のよごれを浸すだけで揉み洗ひの必要なく十分間にて生地を傷めず又絕体縮まずフックラと新品同樣に洗濯が出來ます
毛毯、疊、夏帽子、皿、丼等の油あかも綺麗に落ちます
右一度御試用を願上ます
【販賣店募集】
平市四丁目角
菅野屋商店
電話一五七番

周旋開業
永らく料理店にて御贔負に預りました若美家が此程周旋業に轉業致しました故宜しく御願ひ致します
藝妓 娼妓 酌婦
四倉町驛前
若美家
松本キヱ

姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女緣
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町
鵜沼孝昌

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板 ベニヤ板、建具材 木羽、便利瓦 建築木材一式
製材工場
織田材木商店
平市 電四九〇番
磐越東線赤井驛前（大作場）電二三五

病室增築、手術室完備
產科 婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
平市新川町 「電話三六九番」

外科一般
內臟外科
性病科
肛門科
▽入院應需△
平市南町（警察署通り角）
外科 木村醫院
木村淳
電話三〇九番

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
平驛前
高柳醫院
醫學博士 高柳博明
電三三六

附屬產院 新設
姙產婦入院隨意
產科 婦人科
木村病院
平市新川町 電話一六四番

手術室完備
外科專門
野村外科
小名濱町古港 元津村屋跡

產科 婦人科
根本醫院
入院隨時
平市南町 電話三四番
根本莊次郎
根本貞雄

內科 外科 小兒科 物療科
◎入院隨時◎
四倉町本町
菅波醫院
電話六三番

◎生徒募集
第一學年二百名
入學申込 四月五日限り
平市城山
磐城青年學校

燃料國策の線に沿ひ
石炭増産「勤勞隊」乘込む
縣下に魁け白河青年の奉仕

石炭の増産に依る燃料報國運動に乘り出した平國民職業指導所では全國指導所へ檄を飛ばして都會の商業報國隊員、農山漁村青年團員等に呼びかけ「勤勞隊」の常磐炭礦來援を督勵磐城、入山、古河等大炭礦へ續々繰り込んで石炭増産にピッチを擧げてゐるが、白河町青年團は「高度國防國家建設立前から重工業の原動力と成る燃料増産に全團員擧げて奉仕すべきである」と團の決議を以て〃石炭増産勤勞班〃を編成常磐炭礦地へ乘込むことに成つた、この吉報に常磐炭礦は論を俟たず平職業指導所も大喜びである

同白河青年團の勤勞班は百余名を數班に分け交互に一週間乃至二週間位宛出動し石炭の増産に協力奉仕するもので團体の勤勞奉仕隊は縣内のトップである

翼賛會の割込みで
團体事務所増築
縣稅務出張所も移す

平市團体事務所は現在小川江筋、鮫川江筋、郡農會、濱三郡木炭同業組合、石城産馬組合、石城町村長會の六世帯が共同經營に當つてゐるが、近く「翼賛會石城支部」が事務所を設け書記を置いて執務することになり事務室が狹溢を來すので新年度早々五、六千圓の工費で増築を計畫してゐる

増築の設計は道路に面した正面玄關前十五坪位の平屋を繼ぎ足し、部屋を二分翼賛會支部事務局と現在平署會議室裏手に小さく成つてゐる縣稅務出張所を移し、團体事務所の小使部屋へ二階を上げて小會議室と應接室を建てる目論みである

團体事務所は元來「福島縣廳出張事務所」の看板を揭げてゐたのを何時の間にか取外し六團体が專用するに至つたものである、工事費は縣稅務出張所を移す條件で縣の補助を受け翼賛會支部及六團体が頭割りに負擔する模樣である

煮干鰮の統制で
移出は許可制
許可なく運ぶ者も罰せらる

本縣煮干鰮縣外移出入統制規則はこの程縣報號外を以て發表されたが、本縣で産出する煮干鰮は知事の許可なく縣外移出を禁じ移入も又縣知事の許可を必要となつた

今後の鰮煮干移出入には水産製品檢査所各出張所を經て知事へ提出するもので運送業者も、その許可書に則り取扱はざれば拘留又は科料に處せられる譯である

今回の煮干鰮縣外移出入許可制は農山林地方へ安價で榮養分の多い鰮を送つて魚類の味も知らない山間部の農民に副食物を均霑させる親心から出たもので、海から遠い會津地方民は大喜びである

素人記者の漫歩
（14）

猪狩庄平氏の印象
○○○○○○○○○○○○

商業界新体制の指導者

稻水生

四丁目洋品店鶴屋の大旦那猪狩庄平氏は當年五十九才市商業工業組合副會長、翼賛會市理事等をやつてをられる。十二日の午前九時すぎ、鶴屋の店の前に立つて暫く窓飾の陳列を眺めた。仰いで見ると屋根看板も網の上に白く鶴屋と入れてあるのが淸楚な感を與へる。中に入つて見ると洋品店だけに陳列が色とりどりで綺麗だ。座敷に通つて氏と對坐した。整頓された落着いたお座敷だ出掛ける時は相當の御年輩でこちらが少し窮屈な感を受けるやうな方ではないかと想像して行つたのであるが、面會して見ると御元氣で熱心に御話しになる態度は豫想に反した若々しい颯爽たるそしてくだけた感を與へる。

私は明治卅八年に三春から當店に養子として迎へられて來た。年は二十二歳でした。その翌年の卅九年に平町の大火があつて何もかもすつかり燒けて丸裸になつてしまつた。自分は灰燼の中に立ち上つて、當時つく〲考へた事は、第一に平地方には「かけひき」といふ事が盛んに行はれてゐる是は徒らにお互に無駄な時間を費すことになる、しかも買つた方では値段に疑を持つといふ不快な念がつき纏ふ。是ではいけない、確かな品物を賣つてお客には一切懸値をいはぬ。女や子供でも安心して品物がかへる、かうしようと思つてそれを實行した。始めは頑固だの何んのと隨分いはれたものです。第二は平地方の商店は坐賣式である。お客が來ると奥の方から品物を持つて來てお客にすゝめる。これもお互に時間の不經濟だ。そこで之を陳列式にして客に選擇の自由を與へるやうにした。かうして大正三、四年頃にはこの私の考へ方が着々實現されて來た。次に他鄕の人は平は東北の大阪だとかういつてゐる。成程石炭の煙は多いがそれは風呂場から出る煙で白煉瓦等をのぞいて何一つ目ぼしい工業はない。成程砂糖と木材と米の消費は仙台よりも多い、しかしそれは炭鑛があるからだ。炭鑛といふものは永續性がない。しかし何か大きな工業を起さうとすると工業に必要な土地と水がない。そこで考へた事は小規模の弓、蒸籠、桶といふやうな家庭工業の振興といふ事である。そこでそれを調査して或は補助をしてやつたりしたので此方面では現在仙台以上になつて來た。

どうも平地方は自然の環境にめぐまれて苦勞が足らんから市の繁榮策等に積極的に乘り出してくる者が少ないもつと積極的にいろ〳〵やらねばならぬ。自分も好く世間の人も好いといふやうなことを考へて何事もやらねばならぬ。

氏は和服姿で端然と坐し、商人らしく相手をそらさず話をすゝめてゆく。商人の報國精神を說くあたりの氏の語調には逞ましさが感じられる。「天法人則に從順なるべし」と書いた軸物の假表裝したのが正面にかけてある。その熱意を提げて平市三千の商人の父となつてその將來を指導して行かれんことを希望する

鹿島村の砂利發掘
惡道路を一掃
平監督所の道路改良策

石城郡内の縣道は砂利不足が原因して縣下一惡道路の定評あり現在茨城縣久慈川で産出する砂利約三車位宛移入し間に合せてゐるため値段も高く一車十一圓台を呼び思ふ樣に使用されずにゐた處最近鹿島村三澤地内に富豐な山砂利の埋藏を發見したので縣では先づ三千圓の工費を投じ三澤へ通ずる砂利運搬用の縣道を改修することに成つた

この過搬用の縣道は三月末までに改修成る豫定で完成後は一日トラック五台位宛の砂利を産出し、値段も久慈川産に比較すると半額の六圓見當で上り砂利質も撒布用としては申分ない良質のものであるから三澤産の砂利採取に依つて平土木監督所管内の惡縣道は漸次改良されるものと期待されてゐる

砂糖配給所
小名濱で町會毎に増す

小名濱町の砂糖配給は從來四ケ所で取扱つて居たが本月六日より十七ケ所（一町會一ケ所）で配給する事になり能率的になり好成績を上げてゐる

鳥小屋の
賽錢寄附
鎌田の少年隣組行事

平市鎌田町岡田三男君外四名の少年隣組で鳥小屋を樹て上つた賽錢二圓六十六錢を市銃後會へ寄附した

四倉町下部組織
常會委員、區内會長任命

四倉町の常會委員並に町内會長は十一日左の如く任命された

◇常會委員　菅波廉太郎、長谷川西次郎、豊田美孝、篠原保治、猪方金次郎、門馬倉次郎、鈴木賢二、眞田義彰、木村守江、金成岩吉、佐藤熊藏、荒川善太郎、高木捷治、佐藤直之助、新妻金次郎、小沼光造、新谷政雄、佐藤榮喜、佐藤義助、長谷川信次郎、小湊德三郎、渡邊留吉、押田寅次、中村與八郎、濱田幸次郎、青木源四郎、吉田彌十郎、高木市三郎、鈴木宗平、滿山平藏

◇町内會長　△（本町）佐藤熊藏、荒川善太郎、高木捷治、△（仲町）佐藤直之助、新妻金次郎、小沼光造、新谷政雄△（新町）佐藤榮喜、佐藤義助、長谷川信次郎・小湊德三郎、渡邊留吉、押田寅次、中村與八郎、濱田幸次郎、吉田彌十郎△（田戸）青木源四郎△町頭、高木市三郎△原田、鈴木宗平△峴川、滿山平藏

紀元節を卜し
功勞者表彰
四倉町役場で授與式

四倉町役場では昨十一日の紀元節の佳節を卜し自治功勞者紀元二千六百年記念章を授與した

△町會議員、金成岩吉氏外十六名△學務委員、杉原新伍、豊田盛次△行政區長、新妻金次郎氏外七名△行政區長代理、酒井源太郎氏外十九名△在鄕軍人分會役員木村守江外二名△校醫、西山義意△方面委員、花澤賢有、鈴木克哉△愛國婦人分會員、新妻サタ外三名△國防婦人分會役員、中野ウメ外三名△防空指導部員、郡司相之助外三名△防空監視消、長谷川好男△衞生區長長田憲治、松本幸助△統計調査員、多島安吉外二名△警防團役員、面川貞之助氏外三十五名△産業奉仕委員草野吉藏△農會副會長、猪方金次郎△青年團役員、菅波勇外三名△小學校教員、篠原保治氏外三十二名△青年學校、引地文雄氏外七名△實踐女子青年學校、早川ヨシ外二名△役場員、青木公丸外二十二名△家庭防空群長永井コト外七十八名

小名濱舊正恒例の
優良船表彰
アグリ一等は柳井吉助さん

小名濱町役場、同漁業組合、磐城水産工業會社共同主催の舊正月十五日恒例十五年度優良漁獲船並に鮮魚商、船員の表彰式は十日午後一時より水産試驗場に開き續いて午後五時から新米に祝賀の宴を張つた、表彰者次の通り

【優良漁船】（數字は漁獲高氏名は船主）

◎春職△揚繰船一等二十一萬七千余圓共德丸柳内吉助 二等十二萬五千余圓運德丸芳賀運四郎、三等十萬一千余圓德惠丸御代龜太郎△底曳船一等二萬九千余圓共運丸馬上松太郎、二等二萬一千余圓勇丸二號田島熊次郎 三等二萬余圓觀音丸齊藤誠吾

◎秋職△揚繰船一等十四萬五千余圓共德丸、二等十二萬七千余圓運德丸、三等九萬九千余圓壽和丸野崎貞行△底曳船一等二萬七千余圓勇丸二號、二等二萬五千余圓旭日丸庄司經太郎、三等二萬四千余圓神洋丸永山五郎、◎小型船一等一萬九千余圓櫻丸小野市五郎、二等一萬余圓政丸志賀彌市

【鮮魚商】△特等小野豊次、馬上留次△一等馬上庄次、櫻井吉五郎、立花新次郎、根本丑藏、丹野松太郎△二等佐藤清助、白岩資康、丹由之助、志賀金次郎、大谷惣一、伊藤三男、薫谷松之助、伊藤清次郎、馬上勝次△三等吉田龜之助、小野平吉、本田龜太郎、川俣喜七、鈴木米次郎、青木留吉、川村大吉、松原定吉、安島卜ク、運賀熊次郎、山野邊小二

【優良船員】（大勝丸）片寄義夫（和惠丸）阿部幸吉（勝丸）小野美明（寶來丸）岩佐熊吉（壽和丸）大竹新五（共德丸）櫻本安夫（運德丸）根本留次郎（大和丸）板垣茂雄（神風丸）大浦進（德惠丸）野崎六郎（第三松丸）田澤榮三郎（神洋丸）上野富次郎（第四德榮丸）菊地幸兵衞（眞盛丸）佐藤辰雄（政丸）志賀榮

心光寺住職
如來寺の宗滿師就任

小名濱町淨土宗心光寺住職狩野隆宗師は過般入寂したので心光寺壇下惣代は後任住職の物色中であつたが、東北淨土宗の本山夏井村如來寺權大僧正宗川宗滿師が心光寺復興の名の下に心光寺住職として赴任する事に內定した

時局對應の
染色講習會

十二、三兩日平市公會堂で縣主催の濱三郡下の染色講習會を開催する

講師は川俣工業試驗場の吉田、佐藤兩技師並に工業學校石田教諭で時局に對應する洗染を指導する

日曹赤井坑で
捲揚場燒く
損害一萬圓、原因電熱

十一日午前十時半ごろ石城郡赤井村日曹赤井炭坑捲揚場から發火、同捲揚場一棟及び捲揚機一台を燒いて同十一時半鎭火した、原因は電氣の過熱からで損害一萬圓

平修養團で
特別講習會
十六日公會堂に開く

修養團平支部では來る十六日午後一時から公會堂日本間に法文學士修養團參事二上與吉氏を招へて特別修養講習會を開催する

講習課目は講義、朗詠、朗唱、合唱、体操、遊戯、食事、茶話、座談等で會費五十錢、携帶品手拭、手帳、鉛筆、食事は同支部で準備する

映画會

第一小學校では十二日午前十一時から講堂に教育映畫會を開いた

日江井支所長
軍用材檢査講習出席

縣林産物檢査平支所長日江井劍二氏は八、九兩日横須賀に開かれた軍用材檢査講習並に十、十一兩日淸水市に開かれた同樣講習會に出席、十三日頃歸廳の豫定

天氣豫報

今晩　北西の風曇り時々晴

明日　北西の風晴れたり曇つたりの天氣

（十三日）

滿潮　前五、三五　後四、五〇

干潮　前一一、一五　後一一、三五

舊正月十八日
木曜　壬辰　赤口　滿　奎宿
新二月十三日

▲一白　意見の衝突計畫の齟齬など起り易く退守吉

▲二黑　進展力盛にして大志大望をも通達する吉日

▲三碧　定業を堅く守れば咎なきも他事を謀るは凶

▲四綠　惠まれたる幸運を取逃がさぬ樣勵まるべし

▲五黃　勉むれば努むるほど功績の大なる幸運の日

▲六白　心の動搖激しく何事も功果を擧げ得ざる日

▲七赤　輕忽に事を行ひて後悔するに至る短慮戒禁

▲八白　人の賴みは請入れて盡力すれば後日幸あり

▲九紫　浮沈多くして吉凶交々至るべし內を整へよ

闘ふ男

岡讓二、花井蘭子の初顔合せに浪界の人氣王廣澤虎造が珍しも現代劇主演の全篇に流れる名調子と胸のすく物語。

「想ひ合ふ心の中を素振りにも見せず、さり氣なく別れて行く二人。今逢はねば生きて再び逢へるとも思はれぬのに、笑つて送り送られた、强い男の一途さと鐵火な女の純情が貴方の胸をゆさぶるのです」

待望の名篇送に來る

祖國に告ぐ

フランスはなぜ亡びたか
銃後女性必見の名畫

「身も心も、命までも捧げた戀故に、母なる祖國を捨てゝ、敵國の男に走らうとする乙女の胸を刺したのはいつか誓つた國への誠、諦らめて、諦らめ切れる戀ならば何んでこれ程惱まうか、御國のためなら哀しくも思ひ切るよりすべはない。涙のまなこに映るのは君が曳かれて行く姿。切々の情感を籠めた悲戀の名篇

新しきナチ名匠カール、リツターが描きし獨逸國家賞獲得の珠玉篇

愈々十三日より封切です　お見逃しのなき樣、女の弱き國は亡ぶお互にお國の爲に强い人になりませう。

文化映畫　動物の冬越

短期興行に付き皆さんお見逃しなき樣

御注意期間
二月十三日より
二月十七日まで　五日間

平　東寶映畫劇場　聚樂館　電話七四〇番

決算公告

第九期末昭和十五年十二月三十一日現在

貸借對照表

資産	
現金預ヶ金勘定	一九四、六三一、八六
給付口掛金	一、八四八、八九五、八三
有價證券勘定	二四七、三〇一、六五
貸付金勘定	一、一四八、六六〇、八九
假拂金	三、四三六、五三
營業用土地建物什器	三〇、五三五、六九
所有動産不動産	一、三一〇、〇〇
拂込未濟資本金	七五、〇〇〇、〇〇
合計	三、五四九、六三二、四四
負債	
未給付口掛金	三、〇〇三、七八八、七一
入札差金	六六、一一五、一九
解約返戻金	八、六〇四、一六
給付補塡備金	一三九、一〇
入札差金補償備金	三、七九八、七八
無盡利益備金	一二九、七八三、八三
假受金	一三〇、二四三、六四
日掛假受金	四七、八一八、四三
加入豫約金	二〇四、一〇
社員保證積立金	五、三七五、一三
分類所得稅	二〇八、九五
資本金	一〇〇、〇〇〇、〇〇
法定準備金	七、二〇〇、〇〇
特別準備金	五、八〇〇、〇〇
建築積立金	二、〇〇〇、〇〇
社員退職給與基金	三、五七七、二七
當期利益金	六、一〇五、九五
合計	三、五四九、六三二、四四

財産目錄ハ貸借對照表資産ノ部ト全一ニ付省略

利益金處分

法定準備金	金壹千圓也
特別準備金	金壹千圓也
建築積立金	金壹千圓也
社員退職給與基金	金五百圓也
役員賞與金	金參百圓也
株主配當金（年五分）	金五百圓也
後期繰越金	壹千八百五圓九拾五錢也

當期末給付金契約高　一三、七一三、九〇〇圓

昭和十六年二月十日

磐城無盡株式會社

專務取締役　小宅嘉久治
常務取締役　野内彌富
常務取締役　豐田豐治
常任監査役　有賀幸太郎
監査役　渡邊大

素人工員募集

求人者　神奈川縣川崎市　某工作機株式會社
募集人員　男子若干名
職種　旋盤、組立、仕上、檢査其ノ他
應募資格　年令十六才以上五十才迄　學歴尋卒以上
提出書類　履歴書一通
銓衡日時及場所　二月十五日午前九時　平國民職業指導所
詳細ハ左記ニ照會ノコト

平市田町
平國民職業指導所
舊稱　平職業紹介所

改稱御知せ

拜啓時下初春之候貴下益々御淸榮之段大賀奉候陳者當工場每々各別なる御引立を賜り誠に有難く御禮申上候、今度新体制に即應し生産擴充計畫の爲會社設立の上左記之通り改稱す、二月より事業經營致す事と相成候間何卒倍舊の御引立を賜り度御願申上ぐると共に改稱御通知まで如斯御座候　敬具

平市佃町三番地
舊名稱　佐藤木工場　主　佐藤誠
改稱　東北木工興業有限會社　取締役社長　佐藤誠

各位

▲男女車掌募集

平市四丁目
鈴木自動車部
電話二一七番

亡父高階一郎葬送の際は遠路御會葬被下難有御禮申上候

昭和十六年二月十二日

男　高階次郎

亡礦主高階一郎葬送の際は遠路御會葬被下難有御禮申上候

昭和十六年二月九日

高階炭礦鑛業所
瑞浪炭礦鑛業所
高階鑛業龍生礦山

ビクターレコード專屬

玉川勝太郎一行來演

東亞共榮圈に一新紀元を劃する新春堂々たる一大獅子吼の殉情大浪曲!!

愈々今晩限り

【入場料金八十錢稅共】

會場　聚樂館

風戸興行部責任